

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

* 井上四郎資料 4 (麻布時代のドームと井上四郎氏)

天文情報センターの小池さんが受けた電話に、「大正時代に東京天文台に勤めていた方のご家族から、ご自宅に口径10cmと7cmのレンズがあるので、貴重なものかもしれないので天文台にお譲りしたい」というものがあり、アーカイブを始めた中桐にコンタクトするよう連絡があった。電話でお話を伺うと、その方は大正時代に天文台で太陽の観測をされていた井上四郎氏のお孫さんだという。そしてお歳が83歳だと言う。古い子午儀など、天文台に残る望遠鏡でレンズが他に転用されたりして対物レンズのない望遠鏡がたくさんあるので、それらの対物レンズではないかという期待をもってさっそくお宅に伺った。レンズ自体はさほどの価値のものではなかったが、大正から昭和初期にかけて天文台官舎にお住まいであった井上四郎氏の資料、写真などをたくさんお持ちで、それらにあるものは頂き、あるものはお預かりして複製を作らせていただいた。次の写真1は麻布時代のドームの玄関で撮られた写真である。麻布時代の写真はいくつか残っており、天文台百年史などいろいろな文献に掲載されているが、この写真のように玄関の様子が分かる写真は初めてだ。



写真 1



写真 2

写真1の右端の方が井上四郎氏で、写真2が正装の井上四郎氏だ。このように当時の様子が分かる貴重なたくさんの写真をいただいた。氏は東京天文台に入る前は商社にお勤めで長くイギリスにお住まいで、英語に堪能であったようだ。